

小學  
山田正一著述  
算教  
科書

卷五

特37

182

大日本教育會館			
三	四	一	〇
函	架	號	册

京都府尋常中學校教員  
山田正一著述

卷五

# 小學筆算教科書

京都育英書房 福井正寶堂

小學筆算教科書卷之五

京都 山田正一 著述

## 第一節

### 除法

例 金四錢と二分を九に其一分は何程とせしや

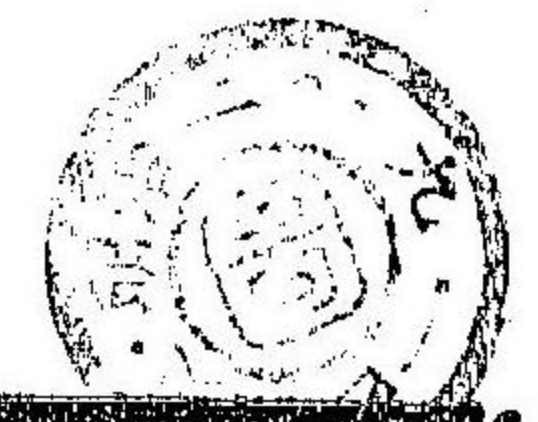
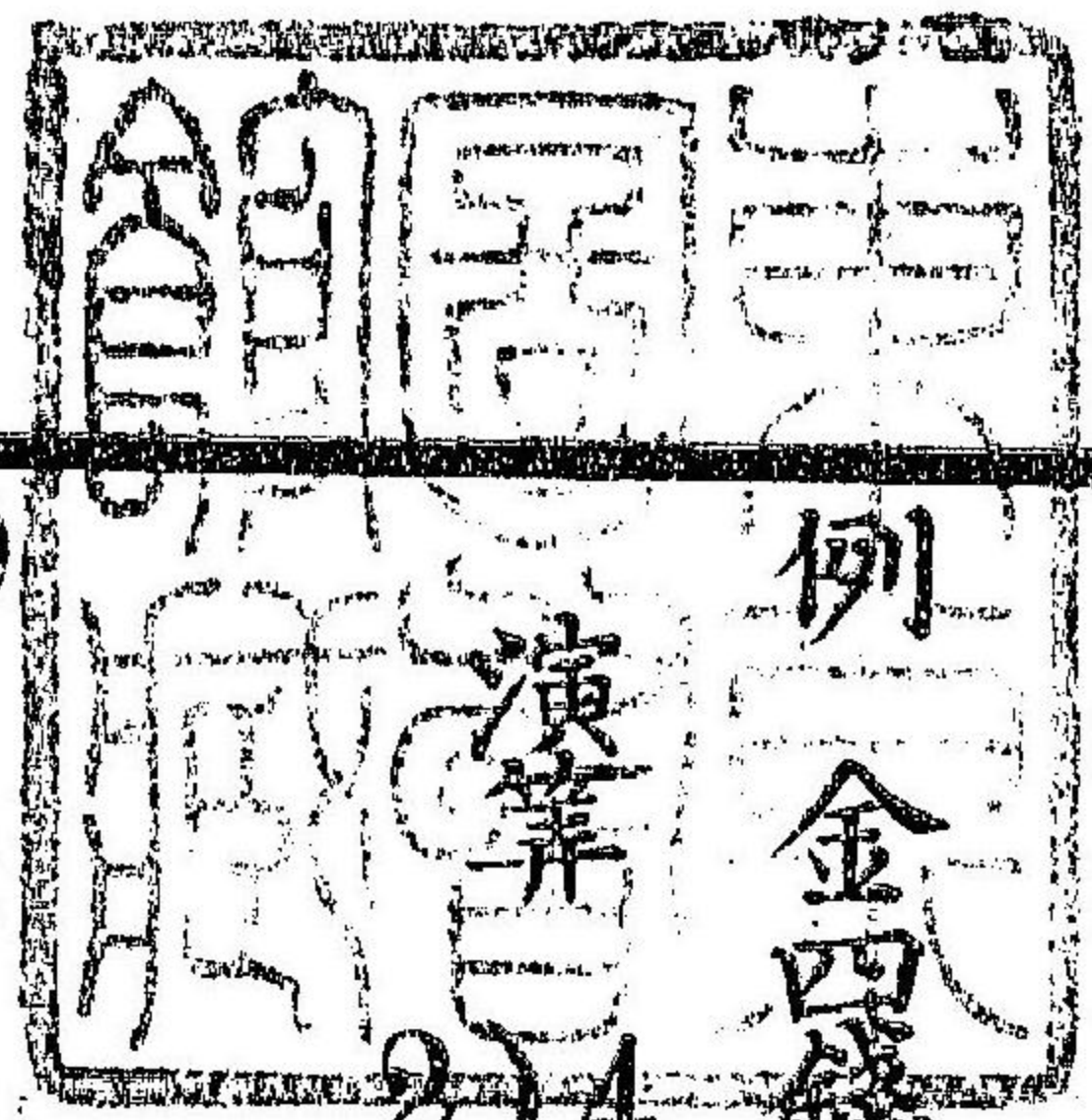
演算  $4 \frac{2}{100} \div 9 = 2$  答二錢なり

例題

(一) 左の諸数と二分に分けよ

- 2.
- 6.
- 8.
- 10.
- 12.
- 14.
- 16.
- 18.

(二) 左の諸数と二分に分けよ



2105206

小學筆算教科書 卷之五 一 三

3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27,  
 (三) 左の諸數と四よ分のぞく

4, 8, 12, 16, 20, 24, 28, 32, 36,  
 (四) 左の諸數と五よ分のぞく

5, 10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 45,  
 (五) 左の諸數と六よ分のぞく

6, 12, 18, 24, 30, 36, 42, 48, 54,  
 (六) 左の諸數と七よ分のぞく

7, 14, 21, 28, 35, 42, 49, 56, 63,  
 (七) 左の諸數と八よ分のぞく

(七) 左の諸數と八よ分のぞく

8, 16, 24, 32, 40, 48, 56, 64, 72,  
 (八) 左の諸數と九よ分のぞく

9, 18, 27, 36, 45, 54, 63, 72, 81,

第二節 除法の續き

例 金二十四圓と二人よ分てば一人分何程とせらるや

演算 
$$\begin{array}{r} 2 \overline{) 24} \\ \underline{12} \phantom{0} \\ 12 \phantom{0} \\ \underline{12} \phantom{0} \\ 0 \phantom{0} \end{array}$$
 答十二圓なり

又例 米百七十八俵と二に分てば其一分ハ何程とせらるや

演算

$$2 \overline{) 178} \\ \underline{89}$$

答八十九俵なり

例題

(一)	2) 28	(二)	3) 39	(三)	2) 62
(四)	3) 96	(五)	4) 84	(六)	2) 426
(七)	3) 693	(八)	4) 484	(九)	2) 802
(十)	3) 906	(十一)	2) 54	(十二)	3) 48
(十三)	4) 96	(十四)	3) 75	(十五)	2) 138
(十六)	3) 255	(十七)	4) 172	(十八)	5) 175
(十九)	4) 138	(二十)	6) 138	(二十一)	7) 224
(二十二)	3) 237	(二十三)	5) 385	(二十四)	6) 816
(二十五)	6) 444	(二十六)	8) 496	(二十七)	7) 938
(二十八)	2) 596	(二十九)	3) 741		

第三節 除法の續き

- (一) 前節の例題の如く一數と二分一又ハ三分する等の法と除法と云ひ又割算と云ふ
- (二) 其一數と實又ハ被除數と云ひ分ハ所の目安と法又ハ除數と云ひ分ち得たる數と商と云ふ
- (三) 除法は於てハ(÷)一なる三種の記号と用ゆ之と各除号と名く此の記号の用法ハ左の如く
  - ÷の記号ハ其左ハ實右ハ法と記し( )の記号ハ前節ハ用ひ一如く其左ハ法右ハ實と記し又一の記号ハ其下ハ法上ハ實と記す

例 25 ÷ 5、  
 5 ) 25、  

$$\begin{array}{r} 25 \\ \underline{5} \\ 5 \end{array}$$
 於てハ各二十五と五ハ分ハるものと示すなり

例題

- (四)  $441 \div 3 = ?$
- (五)  $376 \div 4 = ?$
- (六)  $285 \div 5 = ?$
- (七)  $896 \div 7 = ?$
- (八)  $666 \div 9 = ?$
- (九)  $\begin{array}{r} 1432 \\ 4 \end{array} = ?$
- (十)  $\begin{array}{r} 1578 \\ 6 \end{array} = ?$
- (十一)  $\begin{array}{r} 3056 \\ 8 \end{array} = ?$

第四節 除法の續き

例 七千五百二十四を三除すること左の如し

演算

$$\begin{array}{r} 3)7524 \\ \underline{2508} \end{array}$$

答二千五百零八なり

又例 八千三百五十七を四除すること左の如し

演算

$$\begin{array}{r} 4)8350 \\ \underline{2087} \frac{2}{4} \end{array}$$

答二千零八十七と殘數二即ち四分の二なり

例題

- (十二)  $1680 \div 3$
- (十三)  $2920 \div 4$
- (十四)  $2730 \div 7$
- (十五)  $3760 \div 8$
- (十六)  $6)18150$
- (十七)  $7)28056$
- (十八)  $4)32036$
- (十九)  $7)42035$
- (二十)  $3)21150$
- (二十一)  $5)30200$
- (二十二)  $2)1214$
- (二十三)  $3)1227$
- (二十四)  $4)2016$
- (二十五)  $5)2040$
- (二十六)  $7)4942$
- (二十七)  $3)7224$
- (二十八)  $4)6812$
- (二十九)  $5)15525$
- (三十)  $3)12102$
- (三十一)  $4)16268$

- (壬)  $8) \underline{40720}$
- (子)  $3) \underline{156787}$
- (丑)  $4) \underline{642715}$
- (寅)  $4) \underline{763523}$
- (卯)  $5) \underline{676036}$
- (辰)  $6) \underline{296531}$
- (巳)  $7) \underline{342654}$
- (午)  $8) \underline{812347}$
- (未)  $9) \underline{776655}$
- (申)  $9) \underline{234567}$

第五節 除法の續き

商の正否如何と試みんと欲せば其商と法との積と求め然して其積と實と校へて其兩數の違差をきや否と檢とて若し違差のふ誤りあるものと

例 二千三百六十五を五除して其商の正否と試むること左の如し

$$\begin{array}{r} \text{演算} \\ 5) \underline{2365} \\ \quad 473 \\ \quad \quad 473 \\ \quad \quad \quad 5 \\ \quad \quad \quad \underline{2365} \end{array}$$

商と法との積實と同じたゆみ此算誤りなきと知る

又左の例の如く残數ある時の商と法との積は殘數を加へて其和と實と校ふべし

又例 一千四百三十五を四除して其商の正否と試むること左の如し

$$\begin{array}{r} \text{演算} \\ 4) \underline{1435} \\ \quad 358 \\ \quad \quad 3 \\ \quad \quad \quad 3 \\ \quad \quad \quad \underline{1435} \end{array}$$

商と法との積は殘數を加へたる數實と同じきゆり誤りなき

例題

左の數の商と求め次に其商の正否と試むべし

- (一)  $3) \underline{48743}$
- (二)  $4) \underline{80064}$
- (三)  $5) \underline{69049}$
- (四)  $6) \underline{41048}$
- (五)  $7) \underline{68046}$
- (六)  $7) \underline{70463}$
- (七)  $9) \underline{19784}$
- (八)  $8) \underline{819264}$
- (九)  $8) \underline{845670}$
- (十)  $9) \underline{906471}$

- (一) 砂糖八斤の價七十二錢をれハ一斤の價ハ何程をるや
- (二) 五圓の金貨ハ幾個より千八百六十五圓とるや
- (三) 石毎ハ金六圓の米ハ金五百二十二圓より幾何石買ひ得るや
- (四) 生徒八十六名ハ供するべき二人掛の腰掛ハ幾脚と要するや
- (五) 八百八十八坪の草と三人の雇女より刈らるゝめんとい一人ハ付幾坪宛刈らるゝや
- (六) 一週間の七日より一ヶ年即ち三百六十五日ハ幾週間をるや
- (七) 酒ハ三斗四升入二樽と以て一駄と云ふ五百十六樽ハ幾駄をるや
- (八) 七十二名の生徒ハ一枚の画紙と四ツ切より其一切宛と興ふとすとい幾枚の画紙と要するや
- (九) 紙數百八十九枚の讀本と一週間内ハ復讀せんと一日ハ平均幾枚

宛讀むるべきや

- (十) 長さ千八百七十二間の繩と九間つゝ切らるゝ幾條とるや
- (十一) 五枚と以て一坪とる天井板あり其四百六十五枚ハ幾坪の天井を張るべきや
- (十二) 長さ一間の軒端より六枚の軒瓦と要するといれば八百零四枚の軒瓦ハ長幾何間の軒瓦ハ供むべきや
- (十三) 長一間の木柵より七本の丸太と要するといれば二千二百九十六本の丸太と以て幾何間の木柵を造り得るや
- (十四) 重量七貫目と以て人夫一人の持ち量とる時ハ一千十五貫目の物の幾人の人夫の持ち量をるや
- (十五) 旅客百八十四里を旅行せんとする毎日八里宛を行く豫定せりと云ふ幾日よくて達する見込をるや

(六) 土塀長一間と築く費用と七圓と豫定とて六千四百四十一圓と要すと云ふ長幾何間なりや

(七) 教場と改造するは一坪の入費と金九圓とてれば四百三十二圓と要すと云ふ幾坪と改造する見込なりや

(八) 百三十八俵の米と甲より乙へ送るは六俵と積むべき軽運車二輛と以てどれい幾回ふりて送り盡すとや

(九) 二数の積は二千九百十九より其一数は七とすると云ふ他の一数の幾何なりや

(十) 一時間は八海里と走る汽船は二百八十海里と幾時間は達するや

(十一) 四千三百六十八と八除くなる商は五百三十九なりと云ふ其商の正否の如何

(十二) 洋服一着と仕立るは七ヤードの羅紗と要すとすれば二千九百零五

ヤードの羅紗とて幾着と仕立得るや

(十三) 貯金五千八百四十五圓と七人の子供は等しくから譲らんとて一名は幾何圓宛渡すと云ふや

(十四) 或人金六千六百六十八圓を其夫人及び四名の子に分ち譲らんとて但し其子は異なる金高の等しくして夫人より一子の二倍と譲らんとて夫人及び各子は幾何圓宛渡すと云ふや

(十五) 或人毎段玄米とて七俵宛と獲る田地若干段と有するは年々の収獲は九百四十五俵ありと云ふ幾何段の田地と所有せるや

第七節 除法の續き 法二位以上のもの

除法は於ての法一位の除法と短除法と云ふ法二位以上の除法と長除法と云ふ



(壬)	7378 ÷ 34 = ?	(士)	2492 ÷ 28 = ?
(丑)	9688 ÷ 28 = ?	(±)	4455 ÷ 45 = ?
(寅)	28854 ÷ 42 = ?	(三)	3604 ÷ 53 = ?
(孟)	39216 ÷ 48 = ?	(古)	5092 ÷ 67 = ?
(重)	30444 ÷ 59 = ?	(五)	7030 ÷ 74 = ?
(庚)	50004 ÷ 54 = ?	(六)	5382 ÷ 23 = ?
(辛)	56448 ÷ 63 = ?	(七)	9639 ÷ 17 = ?
(壬)	41572 ÷ 76 = ?	(八)	11910 ÷ 15 = ?
(癸)	60726 ÷ 87 = ?	(九)	11778 ÷ 26 = ?
(甲)	34875 ÷ 93 = ?	(十)	10906 ÷ 19 = ?

(一)	425 ÷ 17 = ?
(二)	612 ÷ 18 = ?
(三)	885 ÷ 15 = ?
(四)	851 ÷ 23 = ?
(五)	756 ÷ 42 = ?
(六)	1026 ÷ 19 = ?
(七)	4904 ÷ 28 = ?
(八)	1976 ÷ 26 = ?
(九)	2065 ÷ 35 = ?
(十)	2738 ÷ 37 = ?

例題

法	實	商
12)	324	(27
	<u>24</u>	
	84	
	<u>84</u>	

答二十七圓なり

例 金三百二十四圓と十二人よ配當せ各一人の得分何程とせらるや

例 一万三千八百十五と四十五除るとること九の如し

演算

$$45 \overline{) 13815} \begin{array}{r} 307 \\ 135 \\ \hline 315 \\ 315 \\ \hline 0 \end{array}$$

答三百零七なり

例題

- (一)  $68 \overline{) 27404}$
- (二)  $39 \overline{) 19773}$
- (三)  $94 \overline{) 75670}$
- (四)  $52 \overline{) 105768}$
- (五)  $67 \overline{) 181302}$
- (六)  $74 \overline{) 422318}$
- (七)  $86 \overline{) 519010}$
- (八)  $128 \overline{) 486912}$
- (九)  $164 \overline{) 476748}$
- (十)  $215 \overline{) 871395}$

又例 三万五千二百九十五と百三十六除るとこと九の如し

演算

$$126 \overline{) 35295} \begin{array}{r} (280) \frac{15}{126} \\ 252 \\ \hline 1009 \\ 1008 \\ \hline 15 \end{array}$$

答二百八十と残数十五即ち百二十六分の十五なり

- (十一)  $65 \overline{) 24069}$
- (十二)  $78 \overline{) 49966}$
- (十三)  $82 \overline{) 59887}$
- (十四)  $176 \overline{) 95095}$
- (十五)  $253 \overline{) 121440}$
- (十六)  $247 \overline{) 84000}$
- (十七)  $374 \overline{) 243100}$
- (十八)  $283 \overline{) 863184}$
- (十九)  $326 \overline{) 2291780}$
- (二十)  $418 \overline{) 2127750}$

(五) 5730) 34689547	(五) 234) 1171404
(五) 4008) 12284539	(五) 470) 1414230
(五) 6549) 25979883	(五) 509) 3564527
(五) 7018) 33707454	(五) 308) 1264648
(五) 3094) 48288058	(五) 657) 5915003
(五) 5317) 29137160	(五) 373) 24394200
(五) 5263) 437050046	(五) 607) 42975600
(五) 3753) 345384850	(五) 2514) 15234840
(五) 4307) 301739806	(五) 3824) 28297600
(五) 54001) 48654901	(五) 3206) 18283818

第九節 除法の續き

長除法は於て商の正否如何を試むる法の短除法と同じ

例 二万六千五百八十五を七十三除して其商の正否を試むること九の如し

左の試法の如く商と法との積と残数と加へた数實と同じきやう上の演算の正しきと知り

演算

$$\begin{array}{r}
 73 \overline{) 26585} \quad (364 \frac{13}{73}) \\
 \underline{219} \phantom{00} \\
 468 \phantom{00} \\
 \underline{438} \phantom{00} \\
 305 \phantom{00} \\
 \underline{292} \phantom{00} \\
 13 \phantom{00} \\
 \phantom{00} 364 \\
 \phantom{00} \underline{73} \\
 \phantom{00} 1092 \\
 \phantom{00} \underline{2548} \\
 \phantom{00} 26572 \\
 \phantom{00} \underline{13} \\
 \phantom{00} 26585
 \end{array}$$

又の商を以て實と除する法を得たの違算が正しきと知る若し残数ある時の實と残数との差を商として除くべし

演算

$$\begin{array}{r}
 26585 \\
 \underline{13} \\
 364)26572(73, \\
 \underline{2548} \\
 1092 \\
 \underline{1092}
 \end{array}$$

實と殘數との差を商より除きし法を得たり因て前の演算の正しを知ると知る

例題

左の諸數の商を求め次に其商の正否を試むべし

- (一)  $357)16065$
- (二)  $549)20862$
- (三)  $406)70644$
- (四)  $615)79347$
- (五)  $763)41230$
- (六)  $472)144918$
- (七)  $584)126144$
- (八)  $638)321575$
- (九)  $2516)588775$
- (十)  $4085)1920008$

積を乘數より除けば被乘數と得べきより積の正否の除法より由て試むることを得べし

例 三百零八を二百十三倍して其積の正否を除法より試むることをの如し

演算

$$\begin{array}{r}
 308 \\
 \underline{213} \\
 924 \\
 308 \\
 \underline{616} \\
 213)65604(308, \\
 \underline{639} \\
 1704 \\
 \underline{1704}
 \end{array}$$

三百零八と二百十三との積と百十三より除きて三百零八と同じき商と得たり因て此演算は誤りなきことを知る

(十一) 五百七十六の四十二倍は二万四千七百六十八なりと云ふ其數の正しきや否

(三) 六百三十五と五十八との積三万六千七百八十五なりと云ふ其数の正否の如何

第十節 除法の續き

法の末位に零の時の其零を省きて除すと簡法なり

答四百五十六と残数百四十五即ち三千七百分の百四十五なり

例

$$1687345 \div 3700 = ?$$

演算

$$\begin{array}{r}
 37 \overline{) 1687345} \quad (456 \frac{145}{3700}) \\
 \underline{148} \\
 207 \\
 \underline{185} \\
 223 \\
 \underline{222} \\
 145
 \end{array}$$

法の末位に零二個を省きたる時の實の末位も二位を省き即ち百位までと除き其下位の数の残数となるべし

例題

- (一)  $250 \overline{) 3258}$
- (二)  $730 \overline{) 17525}$
- (三)  $3500 \overline{) 448000}$
- (四)  $6000 \overline{) 876000}$
- (五)  $4900 \overline{) 401850}$
- (六)  $5900 \overline{) 253716}$
- (七)  $1200 \overline{) 504356}$
- (八)  $5240 \overline{) 2543603}$
- (九)  $37000 \overline{) 18490700}$
- (十)  $31500 \overline{) 70807149}$

第十一節 除法の續き例題

- (一) 金一万千七百九十圓と二百五名に配當せし一名幾何圓に當るや
- (二) 或る商店の一年間の純益が四千二百八十四圓ありと云ふ平均一月間の純益の幾何圓なりや
- (三) 炭二十八俵と積むべき車と以て七百二十八俵の炭を或地へ送らん

と幾回して送り盡さや

(四) 半紙七千二百九十枚と以て一冊五十四枚の書籍の幾冊製し得るや

(五) 二十圓の金貨の幾個とて二万五千圓とさるや

(六) 一ヶ月の學資金と十二圓ととれは三百四十八圓の幾ヶ月の學資を  
充てんと得るや

(七) 田地の一町歩は三千歩なり十三万五千歩の幾町歩に當るや

(八) 傭女一名とて一日は四十五坪の芝と刈る割と以て四千七百二十五  
坪の公園の芝の幾名とて一日は刈り盡さるや

(九) 女洋服十七着の價は五百九十五圓なりと云ふ一着の價は幾何圓を  
るや

(十) 羅紗七十五卷の價は一万八千六百圓なりと云ふ一卷の價は幾何圓  
なりや

(十一) 北鶏三十七羽と畜ふて一ヶ月間は八百八十八個の鶏卵を得ると云  
ふ一羽ニ付幾個と産み割らるや

(十二) 金千九百五十圓の負債と七十五圓の月賦とをせむ幾ヶ月少くして皆  
済むらるや

(十三) 乘數二百七十五とて積十六万七千四百七十五なる時、被乘數幾  
何なりや

(十四) 或る酒造家より百六十七個の酒桶と以て二千八百三十九石の酒と  
造りしと云ふ一桶幾何石入りや

(十五) 玄米百石の相場金七百圓とれは一石の相場は幾何圓なりや

(十六) 建坪五百三十六坪の學校建築費は一万二千三百二十八圓なりと云  
ふ一坪幾何圓に當るや

(十七) 人夫二十七名と使役せし荒地一段と開拓せしと今九百十八名の

人夫と要せし荒地の段別の幾何段なりや

(六) 淡路國の地積ハ四十四方里にして其人口ハ二十一万九千七百三十六人ありと云ふ一方里ハ平均幾人の割なりや

(七) 道程百五十六里と毎日十三里宛行く時の幾日と費やとや

(八) 或る會社の株券ハ一百圓にして株數二千三百五十ありと若し其社の一ヶ年間の純益と四万四千六百五十圓とせし一株ニ付幾何圓の配當とせしや

(九) 或る學校は於て冬期一日ハ消費する石炭ハ四十七斤なりと云ふと其の四千六百零六斤ハ幾日の料とせしや

(十) 明治十三年の文部省年報ハ據るに全國小學校數ハ二万八千四百十校ありて在學の男生徒ハ百七十六万二千百十六名女生徒ハ五十八万六千七百四十六名なりと云ふ此生徒と平均せしハ一小學校ハ男

女各幾名ハ當りや

(十一) 一晝夜ハ一千百二十八町と流る河ハ一時間ハ幾町流るや

(十二) 明治十三年一ヶ年間に東京横濱間の汽車乗客賃金ハ四十八万八千四百二十九圓なりと云ふ一ヶ月間平均幾何圓の賃金ハ當りや

(十三) 今年の調ハ據るに民有田地の段別ハ千六百十九万七千四百五十二町歩にして地價十六億四千九十八万三千七百三十四圓なりと云ふ一町歩の地價ハ平均幾何圓ハ當りや

第十二節 除法の續き加減兼除合用問題

(一) 九十一と五十二との和と十三除して其商ハ三十五と加ふると幾何とせしや

(二) 二百十九と三十九との差と十五と除き其商ハ七十五と五十一と

の差と如ふは、何程の幾何の幾何なりや

(三) 七十三と十七との差と十四倍して其積と四十九と二十一との差とを  
除け、幾何の幾何の幾何なりや

(四) 四十二の九倍と五十六の十二倍との和ハ二十一の幾倍に當るや

(五) 金一千圓と以て白米百三十五石と買入せし、五十五圓剩りしと云ふ  
一石の價ハ幾何圓なりや

(六) 一端の價金三圓の紬三十五端の價ハ縮緬十五端の價ハ全くと云ふ  
縮緬一端の價ハ幾何圓なりや

(七) 米あり七俵と積むべき車と以て運送せむ二十四回ふして送り盡すと  
若し其車ハ八俵と積む時の幾回りして送り終るや

(八) 小學校と増築せむ十五名の有志とて其費用と負擔せむ一名の出  
金三十五圓に當ると若し三名の有志と増せむ一名幾何圓の出金と

せしや

- (九)  $(300 + 156) \div 3 \times 19 = ?$
- (十)  $(13 \times 3 + 12 \times 5) \div 9 = ?$
- (十一)  $71 + 44 - 20 \times 44 \div 11 = ?$
- (十二)  $(477 - 153) \div 12 + 17 = ?$
- (十三)  $(214 + 108) \div 14 - 15 = ?$
- (十四)  $(77 + 37) \div 6 + 2 \times 23 = ?$
- (十五)  $58 \times 45 \div 29 + 109 = ?$
- (十六)  $(15 \times 7 \div 3) \times (56 \div 8) = ?$
- (十七)  $(335 + 73) \times 13 \div (168 \div 7) = ?$
- (十八)  $(24 + 12) \div 4 \times (48 - 24) \div 8 = ?$

(九) 某數より二百三十五

(十) 某數より四十五  
倍とれハ六千八百四  
十と得ると云ふ某數  
ハ幾何なりや

(十一) 七百八十五より某數  
を減し其差と十三倍  
とれハ三千百五十九  
と得ると云ふ某數何  
程なりや

(十二) 六千六百四十と或る  
數とを除めハ商百。



五と得て二十五と餘と云ふ或敷の幾何なりや

(主)半靴二十八足と長靴二十五足との價と合されり百三十一圓として半靴一足の價の二圓なりと云ふ長靴一足の幾圓なりや

(主)玄米七十六石あり其原價の四百五十六圓なり今其四十二石と原價として賣る時の幾何圓の代金と云ふなりや

(主)縮緬五十四端の原價の三百七十八圓なり今一端毎は一圓の利と得て賣る時の二十五端の代價の幾何圓と云ふなりや

(主)大小の輕運車各一輛を以て五百四十束の薪と運送せらるる大の二十七束小の十八束と積むとすれば幾回もして送る終るなりや

(主)茶七十六斤入百二十五函と九十五斤入の函は詰換ゆる時の幾函と云ふなりや

(主)金四百圓と一人に付十八圓宛配當すと云ふが十四圓不足すと云ふ

其人員の幾名なりや

(主)一石金六圓の米と四圓の麥と各同數ありて麥の總價の百四十八圓なりと云ふ米の總價の幾何圓なりや

(主)一石毎に價十二圓の酒十五石と七圓の酒九石と水三石とを混合して別酒と造る時の一石幾何圓の價と云ふなりや

(主)毎頭九圓の綿羊と十七圓の犢とを賣りて一千三十五圓と得ると然して其犢の羊より十一頭少くと云ふ各幾頭なりや

(主)上中下三冊を以て一部とする書籍あり其上二冊の紙數の二十八枚中の三十二枚下の二十五枚あり今一万二千七百五十枚の紙を以て此書籍を製する時の幾部と得るなりや

(主)金一千百六十九圓の負債と四十五圓の月賦と十三ヶ月と経過後殘金と八ヶ月の月賦とを消却せんとす毎月幾何圓宛消却と云ふなりや

(丑)炭若干俵のう之と或る數の金と以て每俵十二錢を買へい五十八錢餘り十五錢を買へい四錢餘ると云ふ金員及む炭の俵數と問ふ

(寅)牛三十六頭と金七百二十圓とて買ひ其十八頭と一頭ニ付二十三圓を賣り尚殘牛と賣りて損益をうけめんよ每頭幾圓を賣るべきや

(卯)每斤價二十三錢の加琲四十五斤の價の麥酒二十八壺の價より六十錢低價をうと云ふ麥酒一壺の價何程なりや

(辰)金一千圓と以て米若干石と買ひ其六十八石と石毎に五圓其餘は六圓を賣りて九十六圓と利せると云ふ一千圓と幾石と買ひ得べきや

(巳)二種の加琲あり其斤數等しくして上の一斤十九錢下の十五錢なり今或る數の金と以て下種と殘らば買ふに十六錢と餘るとして上種と

殘らば買へば其四斤の價程不足と云ふ斤數及む金員と問ふ

小學算術教科書卷之五終

答の節二第

- (一) 14, (二) 13, (三) 31, (四) 32, (五) 21,
- (六) 213, (七) 231, (八) 121, (九) 401,
- (十) 302, (十一) 27, (十二) 16, (十三) 24, (十四) 25,
- (十五) 69, (十六) 85, (十七) 43, (十八) 35, (十九) 23,
- (二十) 32, (二十一) 79, (二十二) 77, (二十三) 74, (二十四) 62,
- (二十五) 298, (二十六) 247, (二十七) 246, (二十八) 135,
- (二十九) 136, (三十) 134,

答の節三第

- (四) 147, (五) 94, (六) 57, (七) 128,
- (八) 74, (九) 358, (十) 263, (十一) 382,

答の節四第

- (一) 607, (二) 409, (三) 504, (四) 408,
- (五) 706, (六) 2408, (七) 1703, (八) 3105,
- (九) 4034, (十) 4067, (十一) 560, (十二) 730,
- (十三) 390, (十四) 470, (十五) 3025, (十六) 4008,
- (十七) 8009, (十八) 6005, (十九) 7050, (二十) 6040,

小學算術教科書卷之五 一上算術室編

小學算術卷之五

第四節の續き

(一) 5090, (二)  $52262\frac{1}{3}$ , (三)  $160678\frac{3}{4}$ ,  
 (四)  $190880\frac{3}{4}$ , (五)  $135207\frac{1}{5}$ , (六) 49421  
 $\frac{5}{6}$ , (七)  $48950\frac{4}{7}$ , (八)  $101543\frac{3}{8}$ , (九) 86  
 295, (十) 26063.

第五節の卷

(一)  $16247\frac{2}{3}$ , (二) 20016, (三)  $13809\frac{4}{5}$ ,  
 (四)  $6841\frac{2}{6}$ , (五)  $9720\frac{6}{7}$ , (六)  $10066\frac{1}{7}$ ,  
 (七)  $2198\frac{2}{9}$ , (八) 102408, (九)  $105708\frac{6}{8}$ ,  
 (十) 100719.

第六節の卷

(一) 金九錢  
 (二) 三百七十三  
 (三) 八十七石  
 (四) 四十三脚  
 (五) 二百九十六  
 (六) 五十二週と  
 (七) 七分の一  
 (八) 十八枚  
 (九) 十八枚

第六節の續き及び第七節の卷

(一) 二十七枚  
 (二) 二百八條  
 (三) 九十三坪  
 (四) 百三十四間  
 (五) 三百二十八間  
 (六) 百四十五人持  
 (七) 百四十三里  
 (八) 百六十三間  
 (九) 四十八坪  
 (十) 二十三面  
 (十一) 四百十七  
 (十二) 三十五時

(一) 否 五百四十六  
 (二) 金 八百三十五圓  
 (三) 子金 千二十八圓  
 (四) 夫人金 二千五十  
 六圓  
 (五) 百三十五段

(一) 25, (二) 34,  
 (三) 59, (四) 37,  
 (五) 18, (六) 54,  
 (七) 178, (八) 76,  
 (九) 59, (十) 74,

(十一) 89, (十二) 99, (十三) 68, (十四) 76, (十五) 95.

(十六) 234, (十七) 567, (十八) 794, (十九) 453.

(二十) 574, (二十一) 217, (二十二) 346, (二十三) 687.

(二十四) 817, (二十五) 516, (二十六) 926, (二十七) 896.

(二十八) 547, (二十九) 698, (三十) 375.

小學算術卷之五

第九節の答

(一) 15, (二) 38, (三) 174, (四)  $129 \frac{12}{615}$

(五)  $54 \frac{28}{763}$ , (六)  $307 \frac{14}{472}$ , (七) 216.

(八)  $504 \frac{23}{638}$ , (九)  $234 \frac{31}{2516}$ , (十)  $470 \frac{58}{4085}$

第十節の答

(一)  $13 \frac{8}{250}$ , (二)  $24 \frac{5}{730}$ , (三) 128, (四) 146.

(五)  $82 \frac{50}{4900}$ , (六)  $43 \frac{16}{5900}$ , (七)  $420 \frac{356}{1200}$

(八)  $485 \frac{2203}{5240}$ , (九)  $499 \frac{27700}{37000}$ , (十) 224

$7 \frac{26649}{31500}$

第十一節の答

- |       |         |      |       |         |       |       |     |       |         |      |       |
|-------|---------|------|-------|---------|-------|-------|-----|-------|---------|------|-------|
| (一)   | (二)     | (三)  | (四)   | (五)     | (六)   | (七)   | (八) | (九)   | (十)     | (十一) | (十二)  |
| 金五十八圓 | 金三百五十七圓 | 二十六回 | 百三十五冊 | 一千二百五十個 | 二十九ヶ月 | 四十五町步 | 百五名 | 金三十五圓 | 金二百四十八圓 | 二十四個 | 二十六ヶ月 |

第八節の答

(一) 403, (二) 507, (三) 805, (四) 2034,

(五) 2706, (六) 5707, (七) 6035, (八) 3804,

(九) 2907, (十) 4053, (十一)  $370 \frac{19}{65}$ , (十二) 640,

$\frac{46}{78}$ , (十三)  $730 \frac{27}{82}$ , (十四)  $540 \frac{55}{176}$ , (十五) 480,

(十六)  $340 \frac{20}{247}$ , (十七) 650, (十八)  $3050 \frac{34}{283}$ ,

(十九) 7030, (二十)  $5090 \frac{130}{418}$ , (二十一) 5006, (二十二) 3

009, (二十三) 7003, (二十四) 4106, (二十五) 9003,

$\frac{32}{657}$ , (二十六) 65400, (二十七) 70800, (二十八) 6060,

(二十九) 7400, (三十) 5703, (三十一)  $6054 \frac{127}{5730}$ , (三十二)

$3065 \frac{19}{4008}$ , (三十三) 3967, (三十四) 4803, (三十五)

15607, (三十六) 5480, (三十七) 83042, (三十八) 920

29  $\frac{13}{3753}$ , (三十九) 70058, (四十) 901,

上野実業学校  
算術  
三  
正算  
正算  
正算

上野実業学校  
算術  
三  
正算  
正算  
正算

第十節の續き

(三) 六百九	(四) 十七石	(五) 金七圓
(六) 金二十三圓	(七) 三十四段	(八) 十二日
(九) 金十九圓	(十) 九十八日	
(十一) 男六十二名と二万八千四百十分ノ六百九十六		
(十二) 女二十名と二万八千四百十分ノ一万八千五百四十六		
(十三) 四十七町	(十四) 金四万七百二圓と十	
(十五) 二分ノ五	(十六) 金百一圓と一千六百	
(十七) 十九万七千四百五十二分ノ五百四万		
(十八) 千八十二		

第二十節の答

(一) 四十六
(二) 三十六
(三) 二十八
(四) 五十倍
(五) 金七圓
(六) 金七圓
(七) 二十一回
(八) 金二十九圓六分
(九) 8.
(十) 11.
(十一) 35.
(十二) 44.

第二十節の續き

(三) 8.	(十四) 金十七圓
(四) 65.	(十五) 金二十九錢
(五) 199.	(十六) 百九十四石
(六) 245.	(十七) 各二十三斤 金三圓六十一錢
(七) 221.	
(八) 27.	
(九) 三百八十七	
(十) 五百四十二	
(十一) 六十三	
(十二) 金三圓	
(十三) 金二百五十二圓	
(十四) 金二百圓	
(十五) 十二圓	
(十六) 百函	
(十七) 二十三人	
(十八) 金二百二十二圓	
(十九) 金九圓	
(二十) 綿羊四十七頭	
(二十一) 犢三十六頭	
(二十二) 百五十部	
(二十三) 金七十二圓	
(二十四) 十八俵	

小學算術教科書卷之五終

版權免許

明治二十年七月廿一日

五卷定價

出版發行

明治二十年八月廿七日

金八錢五厘

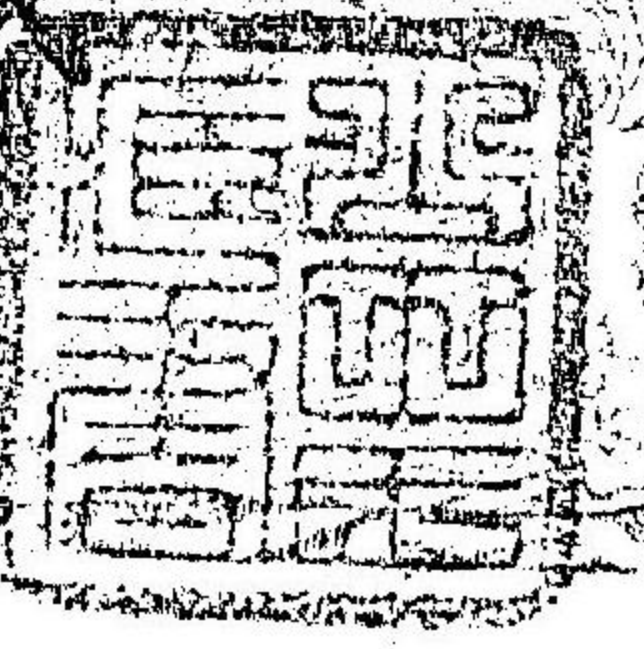
著者 京都府京市中西區長樂  
山田正一

東京區第三組近衛町三拾五番九号

京都府平民

出版者 福井源次郎

下京區第六組三條通寺町東拾三番



小學筆算教科書卷之五終

版權免許

明治二十年七月廿一日

五卷定價

出版發行

明治二十年八月廿七日

金八錢五厘

著述者 京都府尋常中學校教員 山田正一

上京區第五組近衛町三拾五番戶平民

京都府平民

出版者 福井源次郎

下京區第六組三條通寺町東拾三番戶

